

目次

□ 第一回文科學術談話會總會席上に於て		中川會長
□ 美と善		深作安文
□ 青島陥落後に於ける對支關係	二、三	山田千代
□ 過去に於ける日本の女子	二	島山とし
□ 英國の女子體操專門學校に就いて		二階堂さくよ
□ 唱和存稿並序		細田劍堂
□ 伊東にて		尾上柴舟
□ 町の子		千葉安良
□ 雜詠「ゆすらの實」「逝ける友」「若葉」「朝の光」		
□ 不惜身命		L. M. 仰
□ 斷片		F. L. 妙
□ 關西旅行の後に		
■ 雜報 □ 第廿二回學術談話會記事 □ 會計報告 □ 會員動靜 □ John Burroghs		
□ 小女劇 □ 婦人ミ平和 □ 篤學家ミ日本文學		
■ 研究 □ 賀茂祭に就きて		

第一回學術談話會總會席上に於て

中川會長

毎年一回總會を開く事は、學術談話會の規定の中に明記せらるゝ所であるが、今迄は開かるべくして開かれなかつた。今日部長委員其他諸君の斡旋で總會が開かれたのは甚だ喜ばしいことである。講演題目も各科の最近一年間の進歩といふ事に取られたのは、實に適當な思ひ付きであると思ふ。自分の希望としては各科の専門とする所のみ偏せず廣く共通學科の研究報告をも加へられたならば一層よい事であらうと思ふのである。

(1)

何れの國に於ても教育に關する事といへば、昔は殆ど文科的のものに限られた様に思はれて居た。後に理科的のものを加へ最後に技能的教育を加へたのである。文科的の科目は一般教育上基本的基礎的學科と云はれ、文科を離れての基礎は他にないかの如く思はれて居た。尙理科も全部が文科同様に基本的のものとは言へぬかも知れぬが段々基礎學科の位置を占む様になつた。數學の如きは文科に劣らず寧ろそれ以上の基本となつて居る。技能科目は餘程後れて居たが、今日では基本科目に加はり、益勢力を逞しくせむとして居る。手工の如き—専門的ならざる普通一般の—今日では何れの國にても教育の基礎と看做されて居る。又種々の